

研究実施のお知らせ

2025 年 5 月 7 日 ver.1.0.

はじめに

研究の対象となる方のうち、様々な事情により連絡をとらせていただくことが困難な方へむけて、今回の研究についてお知らせいたします。

研究課題名

血栓性微小血管障害症（TMA）の臨床的特徴に関する後方視的研究

研究の対象となる方

2014 年 1 月 1 日から 2025 年 4 月 30 日の間に、当院で血栓性微小血管障害症に対する治療を受けられた方です。

研究の目的・意義

血栓性微小血管障害症は、1) 微小血管内に血小板血栓が生じ、2) 消費性に血小板減少症を来し、3) 閉塞した血管を通過する赤血球が破壊されること（溶血）、の3つの特徴をもちます。微小血管の閉塞が生じることで脳や腎臓などの血流障害が起こり、各臓器障害を来します。代表的な疾患として血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）/溶血性尿毒症症候群（HUS）があげられますが、稀な疾患のためまだわからないことも多くあります。

本研究では、血栓性微小血管障害症の患者さんの症状や検査データ、治療内容や経過などを詳細に調べることで、血栓性微小血管障害症を発症された患者さんをより適切に診療するための手がかりをみつけ、今後の診療に役立つ情報を社会に還元することを目的としています。

研究の方法

この研究は、京都第一赤十字病院で行います。対象となる患者さんのカルテ情報を用いて、疾患の特徴、治療内容、患者さんの予後・合併症などを検討します。あなたの個人情報をご本人が特定できる形で使用することはありません。具体的な個人情報の取り扱いについてですが、研究用に収集する情報を患者さんの氏名や患者 ID（診察券番号）とは、きりはなして保管します。その際、収集した情報が全く誰のものかわからなくなってしまうと、正しく情報が収集されたか確認できなくなるため、ひとりひとりの情報ごとに研究用に新しく符号をつけます。個人と符号化された情報を対応させる対応表は、研究責任者が厳重に管理し、他の機関へ提供されることはありません。

今回、カルテから収集する情報は以下のとおりです。

- ① 血栓性微小血管障害症診断時の状況（年齢、性別、全身状態など）
- ② 血栓性微小血管障害症診断時の検査データ
- ③ 血栓性微小血管障害症発症時に併せ持っていた疾患、既往症
- ④ 画像検査（CT、他おこなわれた画像検査）
- ⑤ 血栓性微小血管障害症の治療・治療効果・有害事象
- ⑥ 血栓性微小血管障害症の病状経過（再発有無、再発後治療、死因など）
- ⑦ その他

研究の期間

2025 年 5 月（研究許可後）～2027 年 12 月 31 日

研究組織

●研究代表者（総括責任者）

京都第一赤十字病院 血液内科 内山 人二

●研究分担者

京都第一赤十字病院	血液内科	古林	勉
京都第一赤十字病院	血液内科	岩井	俊樹
京都第一赤十字病院	血液内科	松本	洋典
京都第一赤十字病院	血液内科	杉谷	未央
京都第一赤十字病院	血液内科	村松	彩子
京都第一赤十字病院	血液内科	埜中	広一
京都第一赤十字病院	血液内科	鈴木	治憲
京都第一赤十字病院	血液内科	有田	梨乃

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人・患者さんご本人の保護者または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。なお、利用停止のお申し出は、2026 年 12 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

相談窓口

京都第一赤十字病院 血液内科 古林 勉

〒605-0981 京都市東山区本町 15-749

電話 075-561-1121（代表） FAX 075-561-6308